

## 送 辞

武家屋敷門の桜の蕾も膨らみ始め、赤坂にも暖かな春の訪れを告げています。この佳き日に、山脇学園をご卒業される三年生の先輩方、本日はおめでとうございます。在校生を代表し、心よりお祝いを申し上げます。

先輩方は今、希望や喜びのなかで、「卒業」の二文字を噛み締めていることでしょう。この山脇学園で過ごしてきた六年間には、楽しい思い出だけでなく、時には悩み迷い、立ち止まりそうになる時もあったことと思います。それでも仲間と支え合いながら、一步一步前へ進み続けてきた姿は、私たち後輩の目にいつも凜として映っていました。

私が入学したばかりで、移動の際に迷ってしまった時に、たまたま居合わせた先輩方が教室まで案内してくれました。また、カフェテリアが混雑している時に席を譲ってもらったこともあります。素敵な学校に入学できたと嬉しく思うと同時に、私も先輩方のように優しい上級生になりたいと思いました。

部活動では、先輩方はいつも私たちに真摯に向き合い、時には厳しく、時には優しく導いてくださいました。そして自分たちが部活動を支える立場になると、先輩方が部活動のリーダーとして、どれだけ指導の大変さや責任の重さを感じていたか、よく分かるようになりました。

先輩方の背中には、私たちの憧れでした。先輩方と共に過ごした日々は、かけがえのない時間として、今も私たちが前に進む力となっています。

そして今年度の体育祭、「ペルシヤの市場にて」プロムナード」は、先輩方の息の合った動きが圧巻でした。一人ひとりが輝きながらも、全体がひとつにまとまっている姿から、最高学年としての誇りと、仲間との強い絆を感じました。

学年対抗でも大差をつけての優勝でしたね。応援でも先頭に立って、高三だけでなく他学年も含め全体を励ましリードする姿に、本当のリーダーシップを教えられました。そして私たちも「来年は自分たちがこの場所に立つのだ」という自覚を持つようになりました。

先輩方が残してくださった伝統や思い出は、これから私たちの道しるべであり続けます。時に不安に押しつぶされそうになることがあっても、先輩方の姿を思い出しながら、今度は私たちが学園を支え、次の後輩へと伝統と想いをつないでいきます。

これから先、先輩方はそれぞれの新しい道へ進まれます。期待の一方で、不安を感じることもあるかもしれません。しかし、山脇学園で過ごしたかけがえのない日々、仲間と共に笑い、涙し、多くの困難を乗り越えてきた経験は、必ず先輩方の力となり、未来を照らしてくれます。どうか自分を信じ、先輩方らしく、大きく羽ばたいてください。

結びになりますが、あらためて本日はご卒業おめでとうございます。これまで私たちを導き、温かく支えてくださった先輩方に、心からの感謝と敬意を表します。皆さまのご健勝とさらなるご活躍を心からお祈りし、送辞とさせていただきます。

令和八年三月七日

山脇学園高等学校

第七十八回在校生総代